QAN便り

第12回QAN定時総会

今年の春に修了した13期生を迎えて500名を超える同窓会組織となったQAN（QBS Alumni Network）の定時総会が、5月12日、レソラ夢天神ホールにて行われました。2016年度は寺松会長のもと、「QANアワード」の創設と、QBSとQANの協働による修了生と現役生を統合したデータベースの構築の2本の柱に加え、これからのQANの体制に合うよう会則の見直し・改訂を行ってきました。第12回となる今回の定時総会では、それらの報告を行うとともに、次期はさらに、これらの活動を持続していく体制を固めるべく、「Sustainable」をテーマに取り組むことが、出席された会員の多数をもって承認されました。また、QANの組織を法人化する議論をスタートすることも発表されました。今回、懸案された全ての議案が多数にて承認され、2017年度のQANは引き続き寺松会長のもと、さらなる改革をスタートすることになります。

また、懇親会では修了生が経営や事業に関わっている飲食関係の企業・店舗様（1期生・井上様「ビアードパパ」、1期生・趙様「エックスハート」、1期生・樋口様「天神テルラ」、3期生・中尾様「南国フルーツ」「TOKIO」、3期生・畑中様「お弁当のはたなか」）よりお料理やデザートをご提供頂き、会員と教員の先生方が舌鼓を打ちながらの大変な盛会となりました。

吉川 靖彦（10期生）

QANアワード開催！

2017年5月13日、レソラホールにて記念すべき第1回QANアワードが開催されました。QANアワードとは、QANの2016年度事業の一つであり、その目的はQBSの学びを活かし各方面で活躍しているQAN会員にスポットライトをあて、世に広く知らしめることです。

アワード当日は事前審査により選出された三氏にプレゼンテーションをいただきました。3期生・古賀正博氏のテーマは「社会連携による地域の若手人材育成活動」、続く4期生・坂本剛氏のテーマは「九州の大学発ベンチャー支援ファンド『QBファンド』の設立および取り組み」、8期生・澤田昌典氏のテーマは「日本からの新しい医療（iPS細胞技術等を利用した再生医療）の開発、事業化へのチャレンジ」と三者三様で、QAN会員の夢と希望の源泉となる素晴らしいプレゼンテーションでした。事前のインターネット投票と当日の会場投票の結果、最優秀賞には4期生の坂本剛氏が選ばれました。

アワードは、今後も継続的にQBSの学びをビジネスに活かしている方を広く紹介し、社会における価値向上に貢献していきます。

力丸 美和（8期生）

Qloth（QBS&QAN名簿管理システム）

2016年度より、QBSとQANが修了生と現役生、および教員の名簿を統合管理するシステムを構築し、共有しながら運用していくことが決まり、10月より正式に会員の新規ユーザー登録がスタートしました。このシステムでは登録された会員の情報を「氏名」「入学期」「ゼミ」「資格」「専門」「業種」「自己PR（自由記述）」で検索し、それぞれの会員にメールを送ることができます。また、プロジェクトの立ち上げ支援機能やアーカイブ機能も備えており、会員が事業やビジネスで繋がる強力なツールとなることが期待されます。

また、一定レベルまでのシステムの改修はQAN内で行う体制としましたので、これでQANは進化することが可能な目に見える形でのネットワークを手に入れた事になります。

このシステムの「Qloth」という名称は公募により、1期生・樋口様の案を採用させて頂きました。縦と横の糸で紡がれた布のようにQANのネットワークを強固なものとすることを示唆しています。

吉川 靖彦（10期生）

在校生紹介

石 弓さん（14期生）

所属▶Eコマース関連企業

約1年前、日本で技術開発に関する仕事をしていた私は、グローバル時代における知識全般が足りないので、視野開拓と幅広い分野に応じる能力を身につけたいと強く実感していました。それをきっかけとして、企業の経営全般とMOTについて学ぶために、QBSへ入学しました。

理工学出身の私は技術開発しか知りませんでしたが、入学して約1年が過ぎた現在、多面的な視点から、企業の経営全般の知識を持つことが出来るようになりました。QBSでのたくさんのケース演習と先端的な経営知識の学習を通じて、現代企業が直面している問題を理解し、技術とビジネスを結ぶ重要性も感じています。

毎日、様々な背景を持つ同期生と切磋琢磨することで刺激を受け、たくさんの収穫があり、楽しいと感じています。これからも、多種な分野でもっとチャレンジして、将来のキャリア目標を実現するために、QBSの皆さんと一緒に楽しく頑張りたいと思います。

溝江 多佳子さん（14期生）

所属▶みぞえグループ（株）イクティス（有）フラワーパーク

私がQBSに入学し、新たな学びに挑戦したいと思ったきっかけは、自身が営んでいる生花店の経営を起動に乗せ拡大したいという思いと、親から世代交代で後継しているみぞえグループの経営の一役を担いたいという思いでした。27歳の時に全くの未経験ながら、生花店の立ち上げをし、試行錯誤しながら、自ら経営する難しさや、人を使う大変さなどを経験してきました。実践に伴う体系的なビジネスをこの1年間学びながら、自身の経営に対し、多くの振り返りの機会となり、今後の事業展開の役に立てていけると確信しています。学校と仕事の両立は大変ですが、いつもくじけそうな気持ちに背中を押して頂けるのは、先生方のQBSに対する熱き思いです。先生方がQBSの学びの質を上げるため、陰ながら様々な努力をされている姿を垣間見る時があります。そういう時、あらためてQBSの一員として自分なりに努力し、この学びの時間を有意義なものにしようと思いますし、このような思いを抱かせていただける環境と先生方には本当に感謝しています。

編集発行／九州大学ビジネス・スクール
担　　当／QBS支援室
住　　所／〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電　　話／092-642-4278
メールアドレス／bs@econ.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812－8581 福岡市東区箱崎6－19－1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL.092-642-4167
ホームページ http://qbs.kyushu-u.ac.jp/
facebook.com/QBS.MBA

QBS 九州大学ビジネス・スクール Kyushu University Business School

Kyushu University Business School
QBS News Letter
九州大学ビジネス・スクール ニューズレター
ISSN 1882-871X
VOL.26
2017.6

編集発行▶九州大学ビジネス・スクール　担当▶QBS支援室　住所▶〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1　電話▶092-642-4278
メールアドレス▶bs@econ.kyushu-u.ac.jp　▶facebook.com/QBS.MBA

専攻長着任のご挨拶

村藤 功
（企業財務、企業価値創造とM&A）

QBSでは2003年の設立以来2017年3月までに546人のＭＢＡが巣立ち、この4月には15期生43名が入学しました。7年前から開始した短期エグゼクティブ・プログラムも116名が修了しています。ＱＢＳは2015年から「新たな事業価値の創造」を担う人材の育成に力を入れており、これからの2年間で、伊都キャンパス移転、科目の充実、国際関係の強化などに取り組みたいと思っています。来年の秋学期からQBSは教員研究室や土曜日の開講を箱崎から伊都キャンパスに移転します。伊都キャンパスには双方向型議論を促進するために円形階段教室を用意しました。また、九大内や他校との連携も含め、どのような科目充実の可能性があるか、選択肢を検討するつもりです。国際関係については、これまで行ってきた交換留学、学生交流、教員交流などをさらに充実したいと思います。昨年度は華中科技大学とアテネオ・デ・マニラ大学が提携校として新たに加わり、中国10校、韓国・台湾・フィリピンがそれぞれ1校、タイ2校が提携校になりました。QBSで受入れる短期交換留学生は2017年度は14名の予定です。QBSからも中国人民大学、大連理工大学、国立政治大学（台湾）に現在3名留学しています。今年度はチュラロンコン大学、来年度は大連理工大学から「アジアビジネス戦略」科目担当教員を招へいする予定です。東アジアの成長を支える企業幹部の養成ならＱＢＳが一番となるように、今後も努力していきたいと考えています。

QBS大学説明会・オープンキャンパスのご案内

九州大学ビジネス・スクール（QBS）では平成30年4月入学希望者のための大学説明会・オープンキャンパスを下記の通り開催いたします。各会場ではQBSの概要説明の他、教員による「模擬講義」や「学生の声を聞く」と題して、社会人学生である修了生・在校生の仕事と学業の両立、QBSに入学することのメリット等の体験談を聞くことの出来るプログラムをご準備しております。

ぜひこの機会にQBSでの学びに触れてみませんか。皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。

昨年の大学説明会の様子

■大学説明会（福岡）
日時：8月2日（水）19：00～21：05
場所：JR博多シティ10階　大会議室
模擬講義：高田 仁 教授「ビジネスモデル」

■大学説明会（熊本）
日時：8月21日（月）19：00～21：00
場所：くまもと県民交流館パレア10階 会議室7
模擬講義：岩下 仁 講師「マーケティング戦略」

■オープンキャンパス（箱崎）
日時：9月9日（土）17：00～19：45
場所：九州大学箱崎キャンパス・
経済学部棟2階 209講義室
模擬講義：目代 武史 准教授「企業戦略」
模擬講義：星野 裕志 教授「国際経営」

大学説明会・オープンキャンパス参加ご希望の方は、参加希望説明会名・氏名（ふりがな）、連絡先（自宅または勤務先住所）、電話番号、メールアドレスを明記の上、ビジネス・スクール支援室宛にE-Mailまたはファックスにてお申し込みください。

九州大学ビジネス・スクール支援室
E-Mail：qbs@econ.kyushu-u.ac.jp
ファックス：092-642-4336

九州大学ビジネス・スクール＜MBA課程＞
平成30年4月入学生（16期生）募集のお知らせ

出願期間／平成29年9月25日(月)～10月2日(月)
募集人員／45名
選抜方法／書類審査（第1次試験）・口頭試問ほか
第2次試験期日／平成29年11月4日(土)・5日(日)

■入学試験に関するお問い合わせ先
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL▶092-642-4167　E-MAIL▶kakgakusei4@jimu.kyushu-u.ac.jp
ホームページ▶http://qbs.kyushu-u.ac.jp/
ホームページからも募集要項のダウンロードができます。

第1回 MBA成長戦略フォーラム

去る3月11日、九州大学西新プラザにてQBS学生会主催の第1回MBA成長戦略フォーラムが開催されました。

学生会では、昨年度まで学内向けのプロジェクト演習論文発表会として「QBSフォーラム」を開催しておりましたが、本フォーラムは「QBSの魅力を社会へ向けて発信すること」を新たなコンセプトに、学内に留まらず、学外の方をも対象にしたイベントへと衣替えしました。

プログラムは修了生による講演、2年生によるプロジェクト演習論文発表、さらにビジネスプラン・コンテストや講義からスピンオフした、実際に起業を目指す現役生による講演で構成されており、まさにQBSを体現するような多様性に富んだものとなりました。

開催当日は熱のこもった講演や活発なディスカッションが行われ、参加者からも「大変面白かった」「様々な示唆をもらった」などのお声をいただき、満足度の高いイベントを開催することが出来ました。

今回は前身である「QBSフォーラム」を初開催してから10回目という節目でもあり、改めてQBSの伝統の素晴らしさを感じました。今後も先輩方から引き継がれた伝統に新たな価値を付加できるよう努力を重ねたいと思います。

最後に、本フォーラムを開催するにあたって、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

安藤 良祐（14期生）

QBS修了生の活躍

12期生の岡さんが「地方創生・政策アイディアコンテスト2016」で地方創生大臣賞を受賞！

地方創生の柱の1つ、内閣府の地域経済分析システム「RESAS」は、地域の人・金などの流れを可視化でき、ネット上で誰でも使えます。このシステムを使った「地方創生政策アイデアコンテスト」が開催され、全国486組の中から地方創生大臣賞という身に余る賞をいただきました。内容は、単に商品開発ではなく、市場視点から、商品を改善し、販路を選択し、宣伝を行う地域の小規模商社＆広告代理店的な糸島版マーケティングモデルを提案しています。

コンテストは政策提案に至るデータの分析方法が最大の評価対象です。データで課題を絞り込み、打ち手を考え易くすることを意識し、まず糸島市の産業における全体像を把握することから始め、各産業、事業者の状況とマクロからミクロへ分析を進めました。そこに内部資源の分析と合わせて戦略を立て、打ち手を考えていく流れです。

打ち手は小規模事業者の支援であるため、連携先が役割分担し、リスク低減することを考え、イノベーションを導き易いよう、多様な主体、外部を巻き込むことを意識しました。

これらは「授業、ゼミで分析事例を学べたこと」「理論を組み合わせて戦略を考えること」などQBSでの学びが仕事に生きています。今後も経営を政策に活かしていきます。

岡 祐輔（12期生）

13期生の森さんがNEDO TCP、UVGPのファイナリストに選出！

NEDO TCP(Technology Commercialization Program)の最終審査会やUVGP（University Venture Grand Prix)でプレゼンしたきっかけは、産学連携マネジメントという科目で取り組んだビジネスアイディアが全国的に通用するものか、また、現実可能性が本当にあるのかどうかを客観的に評価されたいと思い応募したことが始まりです。

どちらも全国規模のコンテストであり、特にNEDO TCPでは、学生だけでなく企業も参加するので、その中で最終審査会まで通過していったという実績はQBSの科目がいかに実践的なものであったか（その分、仕事と学問の両立という難しさをあらためて実感しましたが）という証明となったと思います。コンテストを通過していく中で、業界の最前線でご活躍されている方がメンターに付いていただくなどの貴重な経験やQBSを含む人との繋がりがさらに広がりました。

もう一つのUVGPは経済産業省主催であり、全国の学生チームが参加するコンテストでした。学生チームといっても様々な活動をされている人々の中では自分の未熟さを改めて思い知りました。

社会人になり、行動よりも考える事が多くなる日々を過ごし、チャレンジすることに踏みとどまっていた自分を反省し、これから活動したいと思います。

森 由希恵（13期生）

第27回 ICABE学生交流プロジェクト

今回のICABEは、教員含め総勢25名、3月18日～21日（3泊4日）の日程で中国・大連市を訪問しました。学生交流では、交換留学を活発に行っている東北財経大学と大連理工大学を往訪。QBSでは今年の2月まで両校からの短期留学生（4名）を受け入れていましたが、そのクラスメイトとの約1か月ぶりの再会はとても嬉しいものとなりました。東北財経大学ではグループワーク、大連理工大学では学生代表による複数のプレゼンテーションを行いました。

企業訪問では、南遼寧コカ・コーラ社大連工場とみずほ銀行大連支店を往訪。コカ・コーラ社では、工場見学に加え、業務オペレーションや業績推移、中国人の消費嗜好など詳しく説明をしてもらいました。説明は中国語でしたが、中国語の堪能なQBS学生が日本語に通訳をしてくれたおかげでよく理解することができました。みずほ銀行大連支店では、支店長から大連市を中心とした中国の経済動向について実際の事案などと絡めてレクチャーしていただいた後、執務フロアーを見学しました。

大連は福岡から飛行機で約2時間と非常に近接しており、また多くの日本企業が進出しているとあって、学生それぞれがアジアを中心としたグローバルビジネスの今後の在り方などを考える上でたくさんのヒントを得ることができました。また、中国に留学中のクラスメイトとも会え、海外で頑張っている姿に刺激を受け、旅を締めくくりました。

綾部 博之、内山 貴博（14期生）

平成28年度 福北交流懇談会

去る3月15日に、福岡産業振興協議会による福北交流懇談会が小倉のリーガロイヤルホテルで開催されました。本懇談会は、福岡・北九州両地域の産業界の交流促進を目的に例年開催されているもので、前回からQBSおよびK2BS（北九州市立大学ビジネススクール）の学生選抜チームがそれぞれの問題意識にもとづいた事業構想をプレゼンし、参加者からの評価を得る機会が設けられています。QBSからは、小山さん（14期生）が口腔内環境の改善による健康増進に関する事業構想を提案し、見事K2BSチームに勝利しました。

プレゼン終了後は、それぞれのスクールの在校生・修了生が産振協メンバーである地元の企業経営幹部の方々と食事を取りながら、ビジネスに関する様々な情報や経験を交換し合いました。本交流会は、引き続き新年度も開催される予定です。

高田 仁（産学連携マネジメント、ビジネスにおける競争優位性特論）

修了生紹介

寺松 一寿さん（4期生）

所属▸株式会社寺松商店

修了して10年経ちました。10年と言えばそれなりの時間です。その移ろいの中で、理論としてのマネジメントに知識の深淵があるように、実践においても同じ事が言える、と実感するに至りました。会社組織だけではなく、業界団体や自治会など、人の集まりである集団であれば、効率的に成果を出すプロセスは、同じであると考えるからです。勿論、属する団体の特性に応じて、匙加減を調整しながら、になりますが。

マネジメントの実践を突き詰めると人との関わり方に行き着きます。スピーキングの練習をしないと英語が話せないように、集団の中で人の心に触れる練習をしないと、マネジメントも上手くなりません。人は理屈だけでは動かないからです。

理論のアップデートとマネジメントの実践に終わりはありません。近年、僭越ながら、同窓会組織の運営を任せて頂く機会に恵まれていますが、そのマネジメントもまた本質は同じであろうと考えています。自己研鑽の機会とも考え皆様と一緒に楽しみながら活動させて頂いています。将来が益々楽しみです。

松尾 晃月さん（12期生）

所属▸九州電力株式会社

修了して1年経ちましたが、残念ながらまだ、組織でのキャリアの変化や大きなプロジェクト完遂などの華々しい成果が出ていません。しかし、自社での業務や自己学習を継続しても、決して辿り着けなかった貴重な経験と成果をQBS在学中の2年間で得ることができたことで、これからの事業を大きく動かせる自信があります。

在学中は、ゼミでの学びや各種ビジネスプランコンテストへの挑戦が、特に有意義でした。

ゼミでは、指導教授の導きにより、一歩ずつ自身の課題を紐解きながら、考えを纏め、最終的には、これからの事業につながる論文を完成できたと自負しています。

ビジネスプランコンテストにおいては、同級生とチームを組み、ゼロから立ち上げたプロジェクトが表彰されるなど一定の成果を出し、現在も当時のチームメンバーとお互いのビジネスプラン等を相談できる関係が続いています。また、社内外のビジネスプラン募集に都度、挑戦することがライフワークになりました。

これからもQBSは、私にとって「思考の軸」を整理でき、学びの癖ができ、成長を実感できるオポチュニティです。